

2021年1月22日

会社名 株式会社ジェイック
 代表者名 代表取締役 佐藤 剛志
 (コード番号 7073 東証マザーズ)

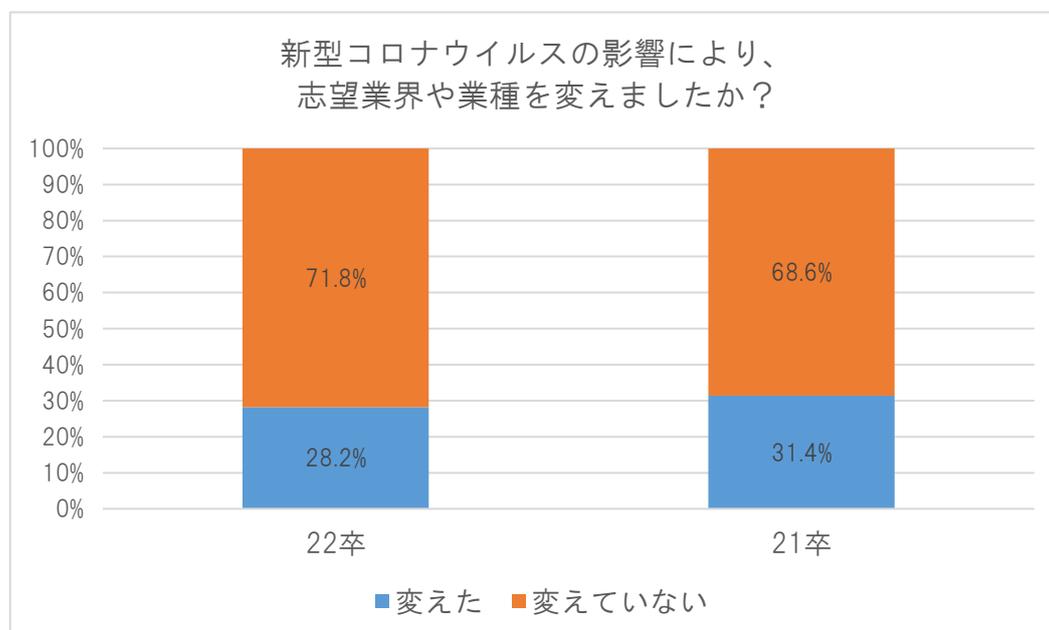
2021年1月実施 新型コロナウイルスに関する22卒学生アンケート 4割以上が「企業の将来性」を重視

当社は、22卒学生を対象にした「新型コロナウイルスによる就職活動への影響に関する状況調査」(回答者数117名/2021年1月6日-14日実施)についての結果を発表します。今回の調査は、21卒学生を対象にした同様のアンケート調査(回答者数210名(内、就職活動継続中105名)/2021年1月4日-1月6日)の結果を受け、実施したものととなります。

<21卒・22卒学生ともに約3割が、新型コロナウイルスの影響により志望業界や業種を変更>

新型コロナウイルスの影響により、志望業界や業種を変えたか質問したところ、21卒・22卒学生ともに約3割が「変えた」と回答しました。卒業予定年度にかかわらず、就職活動中の学生は、新型コロナウイルス感染拡大が企業や社会に与えた影響を目の当たりにし、志望する業界や業種を見直したと考えられます。

また、21卒学生の就職活動の様子を見てきた22卒学生は、今後の社会情勢や業界動向によって、さらに志望業界や業種を変更する可能性があり、当社は今後も継続して調査をする予定です。

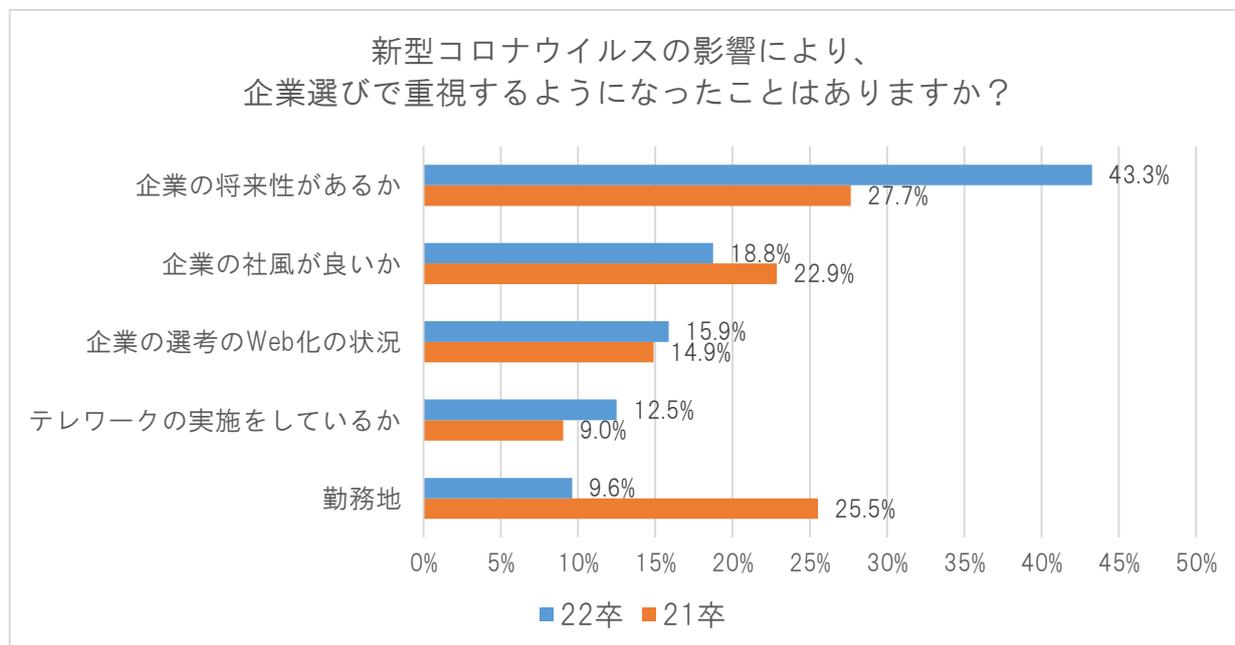


<22卒学生は21卒学生以上に「企業の将来性があるか」を重視>

次に、新型コロナウイルスの影響により、企業選びで重視するようになったことがあるか質問したところ、「企業の将来性があるか」が43.3%(22卒)・27.7%(21卒)で最多でした。22卒学生の回答割合は21卒学生よりも15ポイント以上高く、新型コロナウイルスが再拡大しているなか、22卒学生が企業の将来性について慎重に検

話しながら就職活動を進めている姿が見てとれます。

一方、22卒学生の回答割合のほうが低かったものとしては「勤務地」9.6%（22卒）・25.5%（21卒）が挙げられ、約16ポイントの差があります。これは、22卒向けのインターンシップや会社説明会などをオンラインで行う企業が増えたことで、通勤距離等を意識する学生が減少している、ということが可能性として考えられます。



この結果について、当社常務取締役の近藤は、「21卒学生は新型コロナウイルスに振り回された最初の世代。22卒学生はその様子をずっと見てきたので、なるべく早く動き、多くの情報を集め、新型コロナウイルスが企業に与える影響を慎重に見極める傾向が21卒学生以上に強く、採用枠の減少や内定取り消しについても非常にナーブになっている。22卒学生も21卒学生と同様に、オンライン中心の就職活動になる可能性が高いので、学生と企業の間でミスマッチが起こらないように例年以上に注意する必要がある。企業側は、将来性に関しては、長期的な視点だけでなく、短期的な見通しも学生に示すと良い。例えば、自社のリモートワークに関する現在の取り組みや今後の働き方の方針、この環境下で事業をどのように変化・進化させていっているのか。学生に対して自社の現状と展望について積極的に情報提供することが、学生の不安を取り除くことに繋がる」と述べています。



近藤 浩充

当社常務取締役カレッジ事業本部長兼マーケティング開発部長。大学卒業後、情報システム系の会社を経て入社。IT戦略事業部長、経営戦略室長、教育事業部長、若手の採用・就職支援を行うカレッジ事業部長を経て現職。若手求職者の傾向と企業の採用・育成課題の双方を知る立場から、当社の若手求職者向け就活研修・企業向け教育研修を監修するほか、一般企業、金融機関、経営者クラブ、高校などで、若手の採用や育成、キャリア形成等についての講演も多数行っている。

【調査概要】

名称 : 新型コロナウイルスによる就職活動への影響に関する状況調査
対象 : 当社の特性マッチングサイト「FutureFinder®（フューチャーファインダー）」に登録した22卒学生
回答者数 : 117名
期間 : 2021年1月6日-1月14日

【お問い合わせ先】

株式会社ジェイック 担当：稲葉

E-mail : info@jaic-g.com テレワーク実施中のため、メールでのご連絡をお願いいたします。